

校庭緑化について

はじめに

文部科学省では平成9年度から、屋外教育環境整備事業を行い校庭の芝生化を推進し、全国で多くの学校の校庭が芝生化されています。

札幌市においても、これまでに60か所以上の校庭の芝生化が行われてきました。

ここでは、校庭を芝生化することによる利点と問題点を述べると共に、当社で維持管理に携わっている、札幌市立資生館小学校の事例を紹介いたします。

1. 校庭芝生化による利点

- ・校庭芝生化後は土のグラウンドよりも、休み時間や放課後に校庭で遊ぶ児童・生徒が増える傾向にあります。
- ・土のグラウンドでは転んだ時に擦りむく怪我が多発しますが、芝生化することによりこうした

怪我が大幅に減少します。

- ・生き物である芝生に触れることにより、情操教育的効果が期待できます。
- ・芝生の上で行う活動や管理作業を通して、児童・生徒や教職員、保護者、地域の関係者などのコミュニケーションが深まります。
- ・身近に美しい緑の芝生が存在することにより、児童・生徒の環境に対する意識が高くなります。
- ・土のグラウンドでは、近隣から土ぼこりの苦情が寄せられることがありますが、芝生化すると土ぼこりが立ちにくくなります。

2. 芝生化する上での問題点

- ・教職員、児童・生徒、PTAなど多くの学校関係者が校庭の芝生化は初めての経験になると思います。このため、造成や管理、運営などについて不安感を抱くことになると考えられます。
- ・校庭の芝生化により、特に維持管理の面で学校



写真1 資生館小学校の運動会



写真2 芝刈り作業

関係者の負担が増えることが考えられます。

- ・芝生の養生期間により、校庭の利用が制限されることが考えられます。

3. 資生館小学校の事例

札幌市立資生館小学校は平成16年に全面芝生の校庭がある新設校として誕生しました。

芝刈りや施肥などの通常管理作業は、学校職員が行っています。当社では通常管理作業以外の季節管理作業を受託して実施しています。

6月にエアレーション（コアリング）と目砂を行い、9月にもエアレーション（スパイクング）を行います。また、期間を通してディポット補修なども行っています。

例年、4月下旬からゴールデンウィークまでの間、芝生に養生シートを掛けていますが、この作業は教職員が手伝いながら6年生が行っています。また、芝生グラウンドのゴミ拾いや落葉拾いは全学年が協力して、行っています。



写真3 エアレーション作業

おわりに

芝生の校庭を維持していくためには、様々な問題もありますが、以下の様な方策が考えられると思います。

まずは導入前の準備段階で、教職員をはじめとした学校関係者の間で納得いくまで話し合う事が重要だと思います。学校職員だけで運営して行くには限界があると思いますので、PTAや地域の校庭利用団体のバックアップを取り付けることも必要であると思います。

運動会などのイベントを行った後は、出来るだけ養生期間を設けるなどの配慮を行い、敷地に余裕があれば土のグラウンドを一部残したり、トラックの部分は土にするなどの方法もあります。

また、手押し芝刈り機を押ししたり、除草などの簡単なことで良いので、生徒にも維持管理作業の一部を行わせる事により、校庭芝生の運営は引き継がれていくと思います。



写真4 芝生グラウンドでの活動